

繊維産地におけるサプライチェーン強靭化に向けた対応検討会（第4回）

議事要旨

○日時：令和7年2月27日（木曜日）10:00～12:00

○場所：経済産業省会議室及びオンライン

○出席者：

<委員>

奥山委員長、岩田委員、梶委員、富吉委員、野村委員、福田委員、鈴木委員

○議事概要：

（事務局から資料3、森常株式会社から資料4、株式会社エイガールズから資料5を説明の後、自由討議。その後、事務局から資料6を説明後、再度、自由討議。）

● 多種多様な主体の連携

- ・ オープンファクトリーは地域外の人材の採用に効果的だが、このように採用すると同期がないため短期間で辞めてしまう場合もある。他業種では合同入社式の実施などの工夫をしており、産地単位でやり方を検討すべき。
- ・ サプライチェーンの核となる企業を補助金等で支援していくことで、地域経済に影響が波及することが重要。財政的な規模感を鑑み、市町村ではなく都道府県レベルでの支援も重要なのではないか。
- ・ 産地リーダー企業はローカル（産地の企業）を意識しながら、グローバルな視野を持つことが必要。自社を含めて産地発展に注力するためにも、地域の協会を含めたサポートが必要ではないか。
- ・ 海外からは従来の国内発注と比較すると短納期を求められており、染色加工等の事業では対応できず失注してしまうリスクも存在することに留意が必要。
- ・ J∞QUALITYは、日本の商品をもっと海外に出すことを目的の事業だと認識している。展示会の在り方などを討論していくことが重要。
- ・ 若い経営者が、一部の企業間連携を進めている。今後は衣食住を絡めたライフスタイル事業が産地を支援する必要がある。また、観光庁等の関係省庁との連携も重要でないか。
- ・ 金銭的な支援を含めて、各産地が産地を見せる仕組みを検討すべき。また、産地が川下と連携していくことが重要。

● 繊維産地のサプライチェーン強靭化に向けた対応（案）

- ・ 人手不足が産地にとって大きな問題。北陸においても設備のキャパシティはあるが、人材不足の影響で十分に稼働できていない状況。
- ・ 国内のアパレル企業と産地企業が連携し、産地の価値を正しく伝えることが重要。そのためインバウンドを踏まえ観光と連携し、取組を支援していくことが必要ではないか。
- ・ 生産のボトルネック、 choke point の解消は、内製化することになるのではないか。
- ・ 産業振興、観光振興の施策は、都道府県レベルだと各部署が連携可能。そのため、面的な支援を都道府県レベルで連携していくことが必要ではないか。

- ・ 産地の名前を出すことについて、トレーサビリティの観点からもどこで製造しているかオープンにしているため、この流れを活用していくことが必要ではないか。
- ・ 国内の繊維は歴史を全面に出していくことが必要ではないか。
- ・ 国内アパレルにおいても、どこで何を作っているかをPRしてもらえれば、開示していくことが重要。
- ・ アツギ甲子園もやっているので、ここと連携するのも良い。
- ・ 今後、繊維産地等の次世代リーダー育成するという事業を立ち上げるのも良い。